サリエリに残された
唯一の手段は——
モーツァルト〈天才〉を
この世から消してしまうことだった！

あなたが聞いた噂は、すべて真実だ

AMADEUS
アマデウス

F・マーリー・エイブラハム■トム・ハルス■エリサベス・ベリッシ

製作ソウル・セインツ■監督ミロス・フォアマン■脚本・原作ピーター・シェファー 劇書房刊■撮影ミロスラフ・オントリチェク

音楽監督・指揮ネヒル・マリナー サントラ盤 ビクター・レコード ■振付トウィラ・サーフ■ 松竹富士株式会社 配給

DOLBY STEREO

あなたが聞いた噂は、すべて真実だ

AMADEUS

カラー作品●アメリカ映画 **アマデウス** 松竹富士株式会社 配給

◉「モーツァルトは私が殺った…」音楽史を揺さぶる衝撃の告白、その真相は!?——

オーストリア、ウィーン、1823年11月のある夜。ひとりの老人が自殺をはかり、血まみれの指で虚空をつかみながら奇妙なことを口走った。〝モーツァルト許してくれ、お前を殺したこの私を！〟

彼の名はアントニオ・サリエリ。かってウィーンの宮廷にその名を馳せた音楽家。そしてモーツァルト。もちろん天才の呼び声のもとに数多くの名旋律を残し、若くして逝った大作曲家。ともに、時の皇帝ヨゼフ二世の寵愛と加護のもとに、五線譜上でペンの冴えを競った二人の男。だが一方が、音楽史上に不滅の名をとどめるのに対して、一方はその存在を知る者さえ希な人物。そして、片一方の不審な〝死〟。果たして、音楽という線で結ばれた二人の男の間に、何があったのか!?

◉絢爛ウィーンの宮廷で、神をはざまに対決した天才vs凡人！——

生まれはイタリアの小さな町。少年時代から音楽にヒラメキを見せたサリエリは、長じて、当時最高の音楽愛好家として知られたオーストリア皇帝ヨゼフ二世のお抱え作曲家にまで栄進した。音楽を通じて神に忠誠を誓った男の栄光だが、その至福の日々も一人のワイ雑で下品な若者の登場で、すべてがブチこわされた。その名はウォルフガング・アマデウス・モーツァルト。軽薄極まりない人間性。だが、それに対位する許しがたき音楽の才。ガラガラと音をたててくずれる神との関係。憤怒やるかたない凡人サリエリは、天才モーツァルトへの恐るべき復讐を決意した——！

華麗なる宮廷に流れるゴージャスな名曲の数々が、二人の音楽家の精神的死闘を彩る。やがて、息詰まるクライマックスが……。

◉比類なき名舞台から、'80年代ベスト・ワンの娯楽大作へ——

〝モーツァルトはもしや殺されたのでは…〟19世紀ヨーロッパに流布したミステリアスな噂をもとに、ピーター・シェファー（「エクウス」）が書き下した傑作舞台劇待望の映画化。「キャッツ」「コーラス・ライン」とともに、近年のブロードウェイを席捲した名舞台が、無類の面白さを具えた娯楽映画として甦った！

シェファー自らが原作をアダプトし、'75年度アカデミー賞を征覇した「カッコーの巣の上で」の名匠ミロス・フォアマン監督が、二年間に及ぶ映画化への夢を実現。

〝魔笛〟〝フィガロの結婚〟〝ドン・ジョバンニ〟〝ピアノ協奏曲〟…ふんだんに流れる名曲群、舞台にはないミュージカル場面の付加、チェコ、プラハにオール・ロケの立体感、そして、サリエリ役F・マーリー・エイブラハム、モーツァルト役トム・ハルスの丁々発止、火花散る競演が、観るものを圧倒的な映画的興奮に引きずりこんでやまない。いま、映画はまぎれもなく舞台を超えた！

あなたが聞いたアカデミー賞最有力の噂は真実だ!!

「素晴らしいドラマ…本年度最大の収穫！」
ビンセント・キャンビー〈ニューヨーク・タイムズ紙〉

「かって、これほど壮大な叙事詩があったか…」
ブルース・ウィリアムソン〈プレイボーイ誌〉

「心を奪う映画…神秘的なまでの名人芸」
シーラ・ベンソン〈ロサンゼルス・タイムズ紙〉

「限りなくパーフェクトに近い映画」
ジャック・マシュウ〈ツディ誌〉

全米マスコミ絶賛の声を浴びて、いま「アマデウス」の周辺は、近ずく'85年アカデミー賞の話題でもちきり。これは栄光のアカデミー賞スタッフが自信満々で再度の栄冠に挑む超大作だ！

'85年新春第2弾 話題のロードショー

有楽町マリオン9F 丸の内 **ピカデリー1** (201) 2881

紀伊国屋ビルうら 新宿 **ピカデリー** (352) 1771

東口 **吉祥寺セントラル** 0422 (48) 6521

◆特別鑑賞券（一般1200円/学生1100円）好評発売中!!

■上映時間

連日	12:00	3:10	6:20